

## 2023 年度 3 年次編入学入試問題

### 人文学（出題意図及び解答）

#### （法文学部 言語文化学科）

出題意図：日本語のエッセイをもとにして読解力、表現力、論理的な文章構成能力を問う。

#### 問 1

【出】筆者の考えを正しく理解できるかを問う。

【解】「カッコいい」人間とは、自ら望んでそうなりえるものではない。むしろ、人に「カッコいい」と思われたがることは滑稽であり、「カッコ悪い」といえる。

#### 問 2

【出】筆者の考えを正しく理解し、それを的確に説明できるかを問う。

【解】「カッコ悪い」という意識が、強い体感を伴う羞恥心を引き起こすのは、それが人から笑われ、侮られ、同情され、馬鹿にされるからである。

#### 問 3

【出】筆者の考えを正しく理解し、文脈を踏まえて、論理的に説明できるかを問う。

【解】「カッコ悪い」も「カッコいい」も普通からの逸脱である。普通から逸脱したものは、普通以上であれば「カッコいい」、普通以下であれば「カッコ悪い」と認識されるが、両者とも非日常性を特徴として、簡単に転倒しうる。「カッコよく」あることに失敗して「カッコ悪い」に転落することもある。そこで、「カッコ悪い」を回避するために、人間は自ら「普通」を目指すのである。

#### 問 4

【出】筆者の主張の趣旨を整理しながら、議論の展開を正しくまとめ、的確に説明することが出来るかを問う。また自らの主張を述べる際に、感想にとどめるのではなく、自らの主張を筆者の主張と結びつけ、根拠をあげて論理的に表現することができるかを問う。

【解】

人に「カッコよく」なりたいと思わせる力には二種類がある。第一に、「しびれる」ような生理的興奮を伴って、自ら能動的にその「カッコいい」対象に憧れる同化・模倣願望である。第二に、社会的な常識や規範など、普通である、とされていることから逸脱して、「カッコ悪い」とみなされているときの、「カッコいい」への復帰・同調願望である。こちらには同調圧力がし

ばしば伴う。この二つが一体となって作用することで、人は「カッコよく」あることに異常に拘り、欲望する。

筆者の見解は大変説得力があり、私にはなぜ自分が無難な服装をして、「普通」を装うとするか、理解できたような気がした。人には「カッコ悪い」を嫌いながら、同時に「カッコいい」ことを回避する面がある。自らの言動を振り返っても、新しい衣服を購入するときに、「カッコよく」ありたいと願いながらも、目立つことを恐れ、結局は変には見えない、無難なものを選び、冒険はしない。「カッコいい」存在になるには、同調圧力を突破して、堂々と自分のスタイルを貫く必要がある。もしも、おしゃれな衣類を購入して、着ることが出来ても、始終人目を気にして、どう見えるかびくびくしていたら、それはスタイルを貫くとはいえず、「カッコよく」も見えない。模倣対象の亜流に陥り、それこそ「カッコ悪い」存在になってしまう。つまり、「カッコいい」存在となるためには、「カッコいい」ことを目指さないことが条件となる。「カッコよく」はなれないなら、せめてこの手の「カッコ悪さ」を回避するために、「普通」への埋没という方法がとられるのだ。